

にぎわい

-日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信-

会員だより

【鳥取県発】

～重要港湾鳥取港西浜漁港区供用開始～

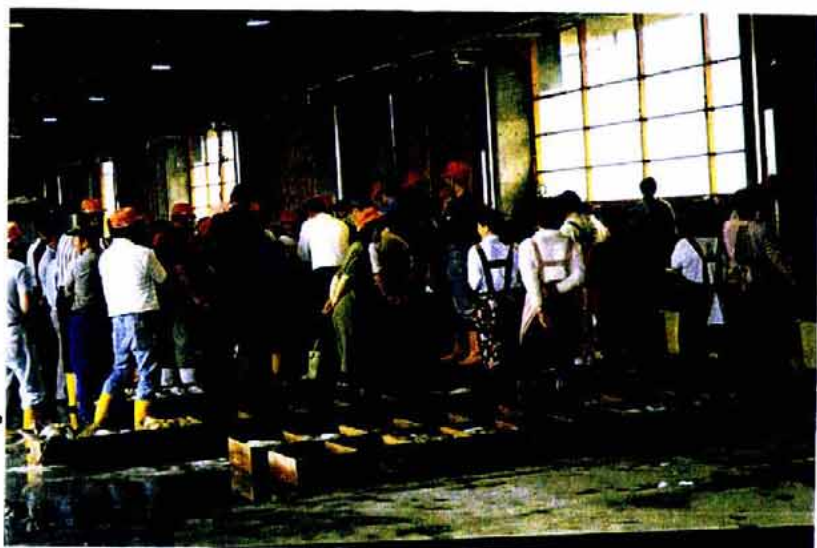
漁業関連施設の充実、漁船の大型化への対応を図るため整備を進めてきた鳥取港西浜漁港区が6月1日に供用開始し、早速、初競りが行われました。

鳥取港は一級河川千代川の河口に位置し、同港の千代地区は県東部の物流拠点として、130万トンの貨物取扱量を誇り、今回の西浜地区の漁港区供用開始に伴って、それぞれ物流・漁業の拠点地区として新たなスタートを切ったこととなります。

供用開始してから2ヶ月がたちますが、真新しい漁業施設で新鮮な魚介類を競りにかけ活気のあるところを、会員の方々に鳥取港のにぎわいとして通信します。



鳥取港西浜漁港地区の状況



漁業施設内でのセリ状況

(鳥取県土木部港湾課)

～にぎわいみなと鳥取港サマー'99～

開港350周年を迎えた重要港湾鳥取港は、昨秋、貨物量が100万トンを超え、今夏、西浜漁港区が供用を開始した。

取扱品目に海の幸が仲間入りし、よりにぎわいづくみなどまち鳥取港では、7月24・25日の両日、歌謡界の大御所北島三郎が絶唱し、フレッシュかれんなモーニング娘が華やかに舞った。

港のとなりに大砂丘がよこたわるわがまち鳥取市はことし市制110周年。

「故郷とっとり夏'99『鳥取みなとコンサート』」
記念のイベントだ。

ヤングから超年配男女延べ2万人のやんやのかっさいのなか、実行委員長の西尾迢富鳥取市長もステージオン。カクテル光線を浴びながら、満面笑みの千両役者ぶりでありました。

駐車場スタッフで奮闘した鳥取市職員チームにとっても、まさに真夏の夜の夢！本当にごくろうさまでした。

～鳥取港開港350年特番放映される～

月がうつり盛夏8月8日には、日本海テレビが『鳥取港開港350年記念特番「海のロマンただよ港・鳥取港」』を1時間にわたって放映。過去・現在そして躍進する未来へと、鳥取港をとり巻くさまざまなシーンが印象的だった。

ちなみに、鳥取市長が会長の「鳥取港振興会」でもこの番組に協賛し、港のキャッチフレーズがナレーションされるなか、15秒スポットが2度放映された。（いわゆるコマーシャル）

“願わくは、TVをご覧になられた方々から、1人でも1トンでも鳥取港の利用者が現れんことを”

CMコメント（キャッチフレーズ）

突破しました、100万トン貨物量！

21世紀！ 環日本海新時代へ、はばたく港 とっとり港
自動車道姫路鳥取線とドッキング

“鳥取港振興会は、山陰東部の一大物流基地を目指します”

～スカイ・レジャー・ジャパン' 99 イン但馬～

夏休み最後の週末は、但馬が熱くなる！

来たる8月28日（土）、29日（日）の2日間、兵庫県日本海側の但馬空港におきまして、国内最大規模のスカイイベント「スカイ・レジャー・ジャパン' 99イン但馬」を開催します。

今回は「見よう！感じよう！夢空間」をテーマに、航空スポーツ8団体によるデモフライト、迫力満点のロック岩崎氏によるエアロパティック（曲芸飛行）やグライダーエアロパティックを実施。

また、来場者の方を対象に、熱気球やヘリコプター、スカイダイビング、ハンググライダーシミュレーター、マイクロライト機による体験フライトを当日募集します。

地上では、但馬・大阪の往復無料航空券、ヘリコプター遊覧飛行などが当たるお楽しみ抽選会、コックピットなどを解放した航空機展示、参加無料の紙飛行機教室や室内ゴム動力機、スタンプラリー、ステージではウルトラマンガイア・ゴーゴーフアイブのキャラクターショー等、多彩な催しがいっぱいです。

他に、但馬の特産品や名産を集めた「但馬じばさんまつり」やフリーマーケットも同時開催。

ぜひ、夏休み最後の週末は、但馬空港に家族お揃いでお越しください。



（お問い合わせ先）

スカイ・レジャー・ジャパン' 99イン但馬実行委員会現地事務局
（兵庫県豊岡市観光商工課内）

TEL 0796-23-1401

～大型客船の入港を弾みに～

浜田港は、島根県西部における内外貿易の流通拠点として、その役割を果たしております。

また、中国横断自動車道広島浜田線をはじめとする陸上交通体系の整備促進と連動し、環日本海交流による対岸貿易を含めた物流拠点として機能強化が図られ、大型の外港船舶の接岸が可能となるよう、現在5万トンバースの建設が進められています。

新岸壁のエプロン部分は既に完成しており、航路浚渫等を残し今秋には暫定3万トンバースとして供用開始される予定となっておりますが、これに先立ち浜田港の港湾関係者は新バースの利活用に弾みをつけたいとして、日本一周大型客船の寄港誘致を行い、地元の熱意に応える形で全体施設完成前の接岸が認められました。

本年7月2日の早朝、雨に煙る浜田港の新岸壁に、日本クルーズ客船が運行する21,884トンの「おりえんとびいなす」号が、造形の美しさを湾内に浮かべ、プラスバンドによる歓迎の演奏が流れるなか、コンクリートも美しいホワイトバースへ初めて着岸しました。

5万トンバースへ寄港した「おりえんとびいなす」は、6月29日に仙台港を出港し、北海道を經由して浜田港へ寄港したもので、下船予定の乗客470名は整列するバスに便乗し、浜田を陸路の出発基地として西中国の観光地巡りに出発しました。

このたびの大型客船の入港を契機に、新バースの活用促進に弾みがつき、官民一体となった取り組みを下地に、物流拠点としての浜田港に対する関心が広く高まることを願いつつ、日本海のにぎわいと交流が更に進展することを目指し、努力したいと考えています。



5万トンバースに接岸した「おりえんとびいなす」

～夢・みなとフェスタ' 99～

平成9年夏、190万人のお客さんで賑わったJAPAN' EXP「夢みなと博覧会」を一過性のものとせず、地域発展の礎とするべく、環境問題をテーマにした「クリスタルファンタジア」が昨年開催されました。

今年度は、境港市の原点にかえり、三つの大きなテーマ…「さかな」「貿易」「鬼太郎」…を柱に「夢・みなとフェスタ' 99」と銘打って様々なイベントを県西部地区若手経済人が柱となって民間主体で行うこととなりました。

期間は7月20日から8月25日迄の37日間です。

その間のイベントとしては、境港出身の漫画家水木しげる氏の作画活動50周年記念企画として「水木しげるの妖怪博物館」、環日本海地域の「貿易港境港」から、視点をちょっとかえて欧米も見てみようということで「アメリカンインポートフェア」が行われています。

開催会場は竹内南緑地を含む「夢みなと公園」周辺です。ここには、大山と日本海を一望できる「夢みなとタワー」、日本海につかった気分で温泉が味わえる「みなと温泉館」、日本海の新鮮な海の幸が手軽にお求めになれる「境港さかなセンター」が勢揃いし、皆様のおいでをお待ちしております。

主な展示内容

『水木しげるの妖怪博物館』

水木先生の生い立ちから、デビュー当時の作品の紹介、また先生が描かれた様々な妖怪たちを紹介していきながら、非常に完成度の高い妖怪オブジェをご覧いただきます。

- ①妖怪博士・水木しげるパネルゾーン
- ②ふしぎ妖怪ゾーン
- ③妖怪サウンドコーナー
- ④妖怪の森ゾーン

『アメリカンインポートフェア』

輸入住宅や輸入建築部材をはじめ、ハンバーガーなどのジャンクフード、また市民参加型のフリーマーケット、アメリカンミュージック、スリーオンスリーバスケットなど幅広く「アメリカの文化」を紹介します。

～「五森祭」カッターレース出場～

7月4日に舞鶴市内で行われた海上保安学校主催の学園祭「五森祭」のカッターレースに、今年も事務所の有志を集い参加しました。ボートは、漕ぎ手、艇長、総指揮を含めて14人の大きなものです。前回までの成績は、女性チームを除き最下位の成績でしたので、今年度は最下位脱出を目標に意気盛んに挑みました。海上保安学校訓練課の教官に御指導を頂き、初回から厳しい練習？を行い、昨年までの反省を生かし漕ぎ隊の配列を検討、昼休みは練習風景のビデオを見ながらあれやこれやと万全の対策を練りました。

大会当日は天候にも恵まれ、絶好のレース日和となりました。参加チームは、優勝候補“みうら”を筆頭に海上保安学校、自衛隊、舞鶴市役所チーム等計8チーム出場です。本番は次々と他のチームが好タイムを残した後の最終レースとなってしまう、緊張したムードの中行われました。レース担当の根回しが効いたのか、「どっから出てきたの？」と思うほどの力をレース開始直後から全員が出し、主力メンバーが吹っ飛ぶ程の勢いという予想外の展開となりました。

肝心のレース結果は8チーム中6位で、素人3チームの中では1番タイムが良く、「来年の目標は更に上位を目指す」と参加メンバー一同固く誓い合いました。



練習風景



参加メンバー

～八島商店街パネル展示～

7月24日に行われた、舞鶴市八島商店街での「舞鶴の企業キャンペーンのタベ」に、当事務所も参加しました。今年のテーマは「みなとの重要性を知ってもらう」ということです。市民に触れ合う数少ない機会ともあって、慣れない職員どうしてPRコーナーを設置しました。出展内容は、ビデオ上映、パネル展示、パンフレット・イベントグッズ配布です。

風船とうちわ配布は行列が出来るほど好評で、肝心のPRよりも風船作り、うちわ配布に追われたほどでした。商店街のアーケード中に、風船・うちわがあふれ、とても華やかな彩りとなり、参加メンバー一同喜び合いました。



風船だらけのPRコーナー

～「みなと舞鶴ちゃったまつり」参加～

7月31日土曜日“第24回みなと舞鶴ちゃったまつり民謡流し”に職員ほぼ全員が参加しました。職場を離れた職員たちも参加するほど人気の祭りで事務所最大のイベントごとです。職員は地元出身者が少なく、例年踊りの先生を招き練習を行っています。若い職員のなかには浴衣の着かたを知らない者もいて、1から10までの指導のもとに連（チーム）を結成しました。民謡流しには賞があり、職員一丸となり入賞を目指し本番を待ちました。

本番は好天の中行われ、29チーム参加、計1,788名となる大掛かりなものとなりました。6時40分から1時間ぶっ通しで行われ、日頃運動不足なみな年輩層から悲痛なうめき声が聞こえたり、町で配られる振舞酒に酔いしれる職員などで統制がとれなくなってしまうありさまとなりました。審査員席を通るときには、ばて気味で筆者も足が動かなくなるほどでした。

さて民謡流しの結果ですが、同じ運輸省でも海上保安学校に最優秀賞が決まり、参加職員一同「あーやっぱりだめか」と、お好み焼屋でため息をもらしながら飲んだくれました。



民謡流し演技中



参加メンバー

(第三港湾建設局舞鶴港湾空港工事事務所庶務課)

編集後記

今号は、発行が8月下旬となったことから、豊岡市さん及び境港管理組合さんには、せっかくの夏のイベントへの参加を呼びかけて頂いたのに申し訳ありませんでした。

今後とも協議会活動への御協力をよろしくお願いします。

第三港湾建設局 広域連携推進室

TEL 078-391-8361

FAX 078-325-8288